

敦賀の文化・生活を紡ぎ、営む、地域のぬくもりに包まれたレールパーク

交通の結節点である敦賀駅とかつて世界への玄関口であった、敦賀港を結んでいた旧敦賀港線。金ヶ崎エリアを中心に廃線敷周辺に息づく敦賀の歴史文化や自然風景を生かし、住民や来訪者に愛される公共空間を創出します。廃線敷の再整備により既存資源の活用を図るとともに賑わいや活性化の為に基盤として回遊性を生みだし、持続可能なまちづくりを実現します。

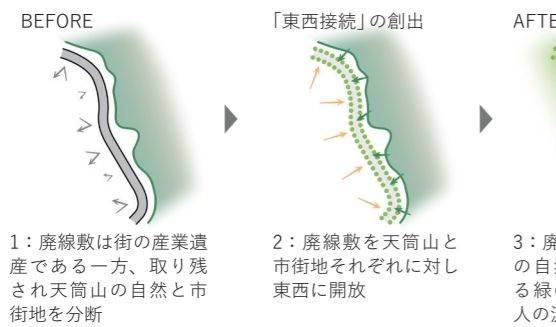


■コンセプト

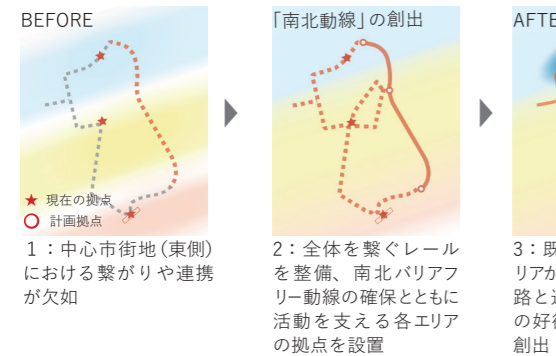


■市街地活性化のシナリオ

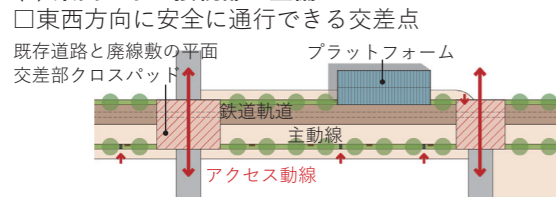
(1) まちと自然を繋ぐ



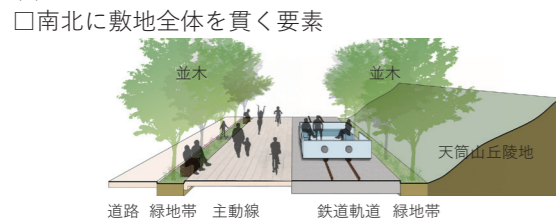
(2) 「8」の字の回遊動線の形成



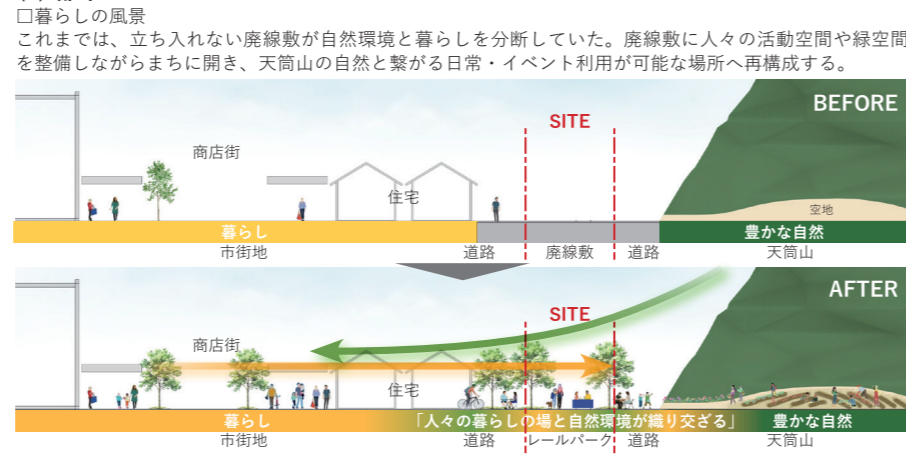
(3) 東西からの接続部の整備



(4) 南北動線の確保と景観形成



(5) 都市のビジョン



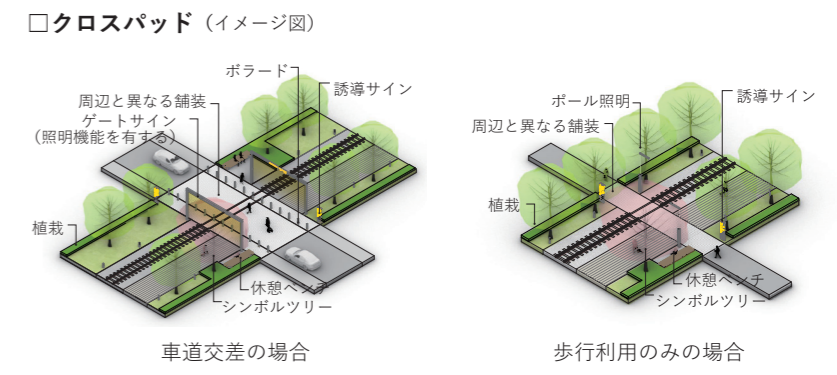
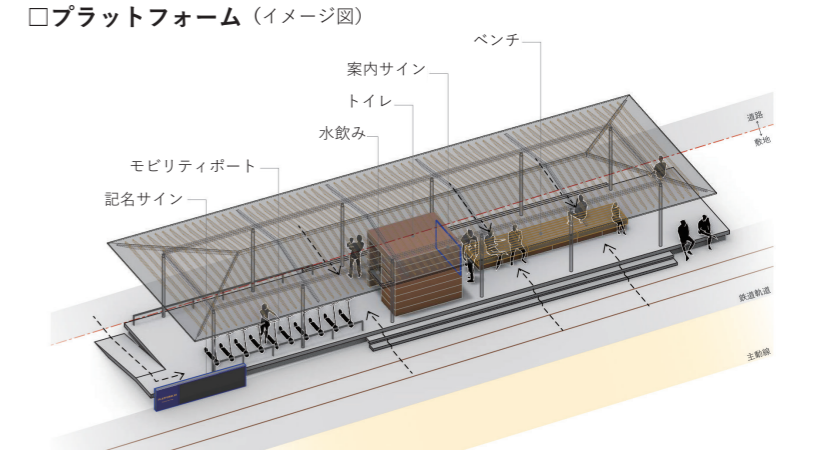
■全体計画 --- 5つのライン

- 舞崎ライン** 敦賀駅や高速道路を通じて広域から人々を受け入れ、天筒山をアイストップとするゲート空間。まちと廃線敷を繋ぐ地域交流拠点。
- 角鹿ライン** 天筒山の丘陵地の植栽や農地が沿道に連続する、地域住民に根ざした環境的な活動空間。
- 天筒ライン** 周辺開発等と連携し天筒山への玄関となる東の中心。天筒山を借景に人々の多種多様な活動・遊びの受け皿となる空間。
- 曙ライン** まちから人々を迎え入れ、四季の移ろいを感じることができる散策空間。
- 金ヶ崎ライン** 敦賀港周辺に多く点在する「鉄道と港のまち敦賀」の歴史文化を象徴し、金ヶ崎周辺整備と連携調和する観光回遊拠点。

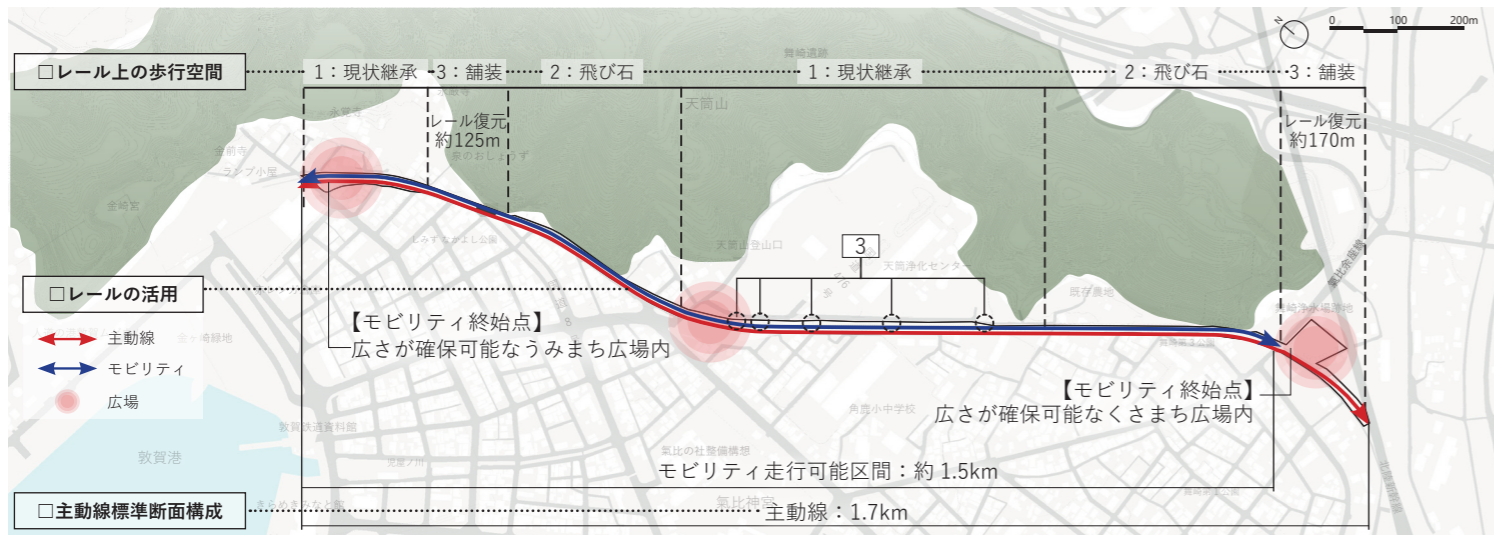


■結節点配置計画 --- 広場、プラットフォーム、クロスパッド

- 屋外活動空間として中心的役割を担う広場 (3箇所)
- 公園施設を整備した屋根下空間のプラットフォーム (4箇所)
- 安全な交差の為にクロスパッド (8箇所)

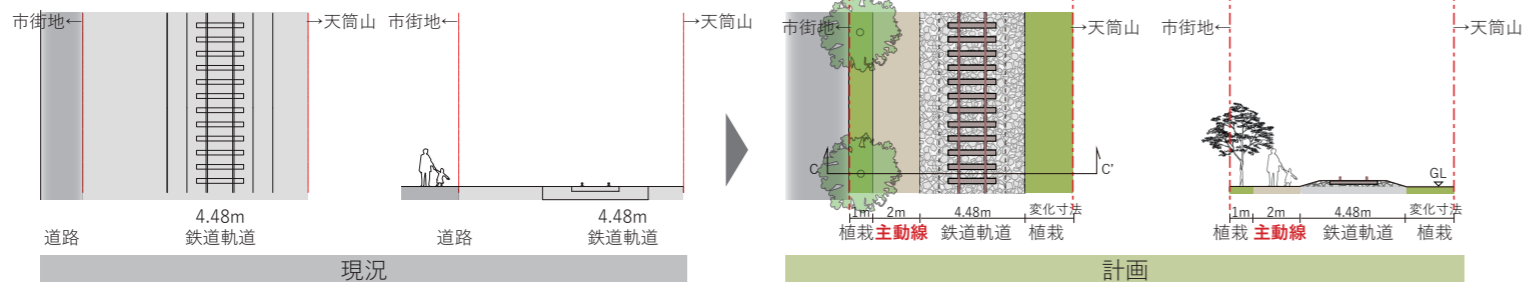


■レールの保全と活用



□主動線標準断面構成

- 既存のレールは現況のまま保全する。
- レールが取り外された範囲では車輪が載置可能な設えでレールを復元する。
- 南北一気通貫の主動線は最低有効幅員2mとし、歩行性向上のため必要な整備を行う。
- 幅員を確保可能な箇所では敷地境界線沿いに植栽帯を設ける。



□レール上の歩行空間

- 敷地内のレールが残存する部分は全て保全する。
- 天筒山と接し主に移動空間として整備する範囲では現状を維持しながら、利用目的に応じて枕木の間に飛び石や木材等を補完し歩行空間として高質化する。
- レールが撤去されている範囲は、レールの復元を検討する。

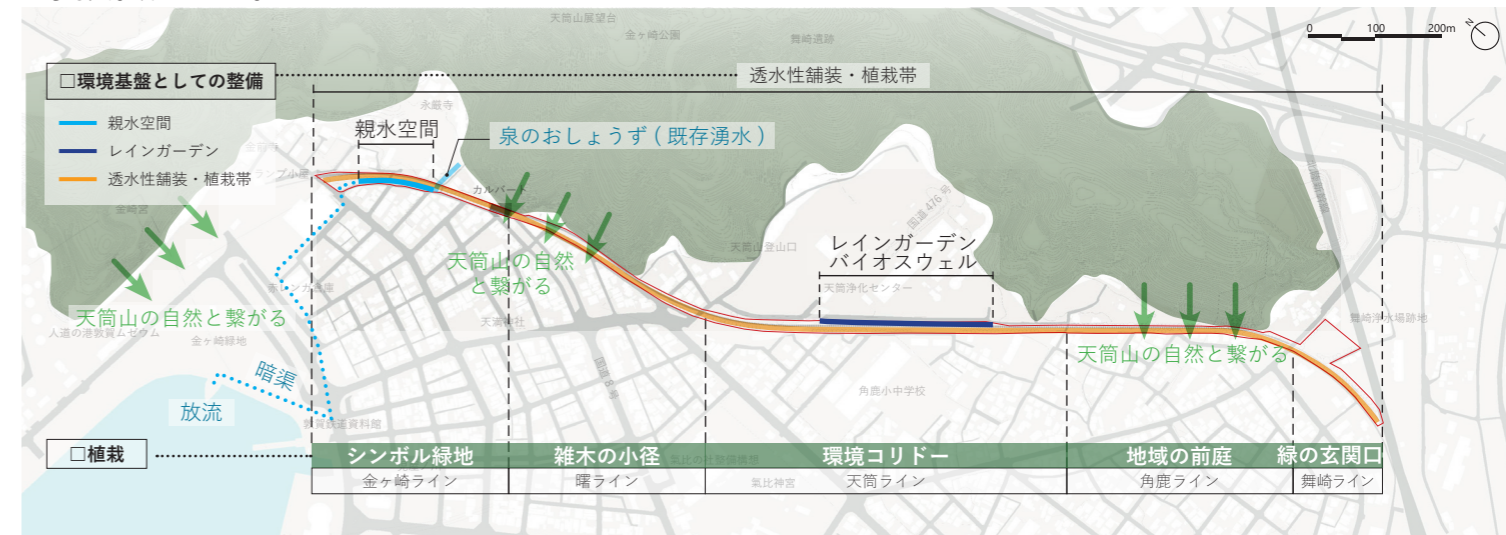
1 現状継承	2 飛び石	3 舗装
<ul style="list-style-type: none"> ・レール、枕木、バラストは現状維持。 ・枕木の間は緑化（ノシバ等）する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・幅員が狭く、散策路として設定する箇所に設置。 ・枕木の間に飛び石等敷設し、歩きやすくする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・レールを復元する箇所と、線路とサブ動線が交差する箇所に設置。 ・PC平板等を敷設し、平坦な仕つらえにする。

□レールの活用

- 保全するレールを活かし、主動線となる歩行空間の整備やレール上に載せる施設、移動手段やイベントとしてのモビリティ走行を検討する。



■景観形成の方針



□環境基盤としての整備

- 主動線を透水性舗装とし、敷地全体の雨水流出抑制を計画
- レインガーデン、バイオスウェルを設け自然環境学習の場を創出
- 湧水を活かした親水空間の整備により水辺のレクリエーション空間を提供



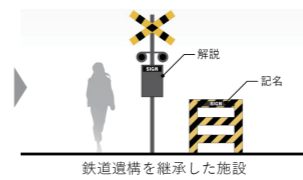
□植栽

- 周辺の自然環境・植生群落の保全と調和を図りながら在来種を基調として計画する。
- レールパーク全体で四季の移ろいを楽しむことができる樹種構成とする。



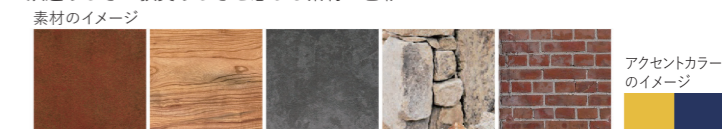
□形態・意匠

鉄道資源の活用など



□素材・色彩

鉄道らしさ・敦賀らしさを感じる素材・色彩



■ワークショップ

□第1回WS「ちょっと昔につかっていた線路を探検」

- 廃線敷を活用することで、幅広い層、特に普段まちづくりに関心の薄い子育て世代への周知と意見収集を目的として、社会実験イベントを開催した。

開催概要	アンケート	選択肢（上位）	票数
日時：2025年11月16日（日）	回答者属性	子どもと安心して遊べる	77
場所：角鹿小中学校奥の高架下（敦賀港線跡地）	女性：57人	散歩ができる・体を動かせる	68
参加数：550人	男性：52人	休息・リラックスできる	46
	無回答：5人	自然と親しめる	45

□第2回WS「ちょっと昔につかっていた線路で遊ぼう」

- 第1回WSで得られたニーズをより具体的な空間計画に落とし込むため、実際に廃線敷を歩いて課題と魅力を発見するワークショップを実施した。

開催概要	アンケート結果（利活用への具体的なニーズ）※一部抜粋
日時：2026年03月07日（土）	将来どんな場所になってほしいか
場所：金ヶ崎第二駐車場から北公民館	・歩行、散策空間の整備：「お散歩道」「ベビーカーでも歩きやすい道」として、日常的に活用できる遊歩道化を望む声が多い。
参加数：40人	・鉄道遺構の線路等を活用した「トロッコ走行」や「電車の展示」など、廃線敷ならではの体験への期待が高い。